

12月 月例報告

日が短くなり、雪も積もる季節となりました。暖かい地域からトロントに見えた方はこの季節、寒さが身にこたえることと思います。私の経験では、12月の冬至、クリスマスを過ぎれば、日はどんどん長くなっていく印象があります。自宅前の木蓮は葉がすべて落ちましたが、早くも春に向けて新芽が出てきました。

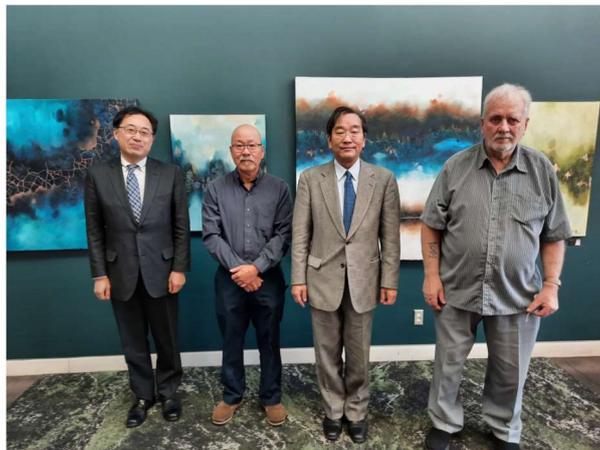
新型コロナの新たな変異種、オミクロン株に世界が身構えています。オンタリオ州を含め、様々な地域で拡散しているようです。我々のできる対策は、これまでのとおりであり、地元保健当局の指示に従い、警戒を怠ることのないよう、今一度お願いしたいと思います。日本に入国をお考えの皆様には、いわゆる水際対策の強化によりご不便をおかけしますが、ご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

今月は11月末に出張しました、サンダーベイ市の訪問についてご報告したいと思います。

—日本文化協会

サンダーベイ市ではまず、テリー・ツボウチ・レイクヘッド日本文化協会会長ほ

か、現地で長く日本とカナダ間の交流、日本文化の振興に携わってこられた方にお目にかかりました。コロナ禍のため活動に制約があることに加え、近年は会員の高齢化が進み日本文化を実際に体験した会員が少なくなっている、との事でした。対策として、私から例えば、レイクヘッド大学の学生で日本文化に関心がある方に声をかけてみる、会員の若い方には、自分の日本のルーツ探しを試みるなど新たな関心を高める、あるいは日本の「食」を活動のテーマに取り入れる、などのアイデアを紹介した次第です。



[日本文化協会の皆さまとの懇談]

ーレイクヘッド大学

次にレイクヘッド大学を訪問いたしました。サンダーベイ市は、人口10万人強です

が、レイクヘッド大学の学生数は8,600名を超え、教職員関係者を入れますと1万人をゆうに超える方々が大学関係者です。サンダーベイの特徴のひとつは、教育文化都市だということです。レイクヘッド大学は、エンジニアリング、医学、法律、ビジネスなど10の学部を抱える総合大学です。学生も国際色豊かで、最も数が多いのはインドからの留学生、次いで中華系の学生との事でした。日本からの留学生も10名近くおられます。私はその中で、この夏から年末にかけて留学をしておられる、学生3名の方とお話をする機会を得ました。コロナ禍で留学先から日本に引き上げ、コロナの状況が落ち着いた国で留学再開の機会を探していたとの事でした。サンダーベイでの生活について何うと、大学のきめ細かい配慮もさることながらホストファミリーの素晴らしさを挙げられました。学生寮のほか、ホームステイをされている方もおられるのです。ホストファミリーが、何でもチャレンジするようにと後押ししてくれるので自分の考え方も大きく変わってきたと言う話をしてくださいました。学力もさることながら、そのような貴重な機会を、短い期間ではありましたが得ることができたとのことでした。先月号でも紹介しましたが、カナダの留学の利点、すなわち学び方の選択の多様さ、留学ビザの取得の容易さ、日本人学生が比較的少なく国際色豊かな学生、多様性に寛容な国民性などがカナダに惹かれる理由であるとの事でした。サンダーベイは、これらがまさに当てはまっています。留学生担当の麻衣子スコージ・コーディネーターもおられます。デビッド・バーネット副学長は、このような特徴も踏まえて

日本からの留学生を歓迎したいこと、また、JET への関心を深めたいとのことでした。ジェームズ・アルドリッジ国際部部長はまさに元 JET の方でした。



[レイクヘッド大学、学生の皆さまとの懇談]



[デビッド・バーネット副学長、ジェームズ・アルドリッジ部長との懇談]

－サンダーベイ市との面談

翌日、サンダーベイ市役所を訪れブリアン・マッキノン・サンダーベイ市長代理のほか、姉妹都市諮問委員会や地域経済開発委員会の関係者の皆様と日本との交流について意見交換を行いました。

サンダーベイ市は、長く岐阜市との交流を続けられてきています。岐阜市は先だつての東京オリンピック・パラリンピック競技大会の際にも、ホストタウンとして、多くのカナダの陸上選手のホストとなりました。コロナ禍の中で残念ながら、現在人的な交流は困難な状況ですが、来年以降に向けて交流が活性化することを期待したいと思います。

サンダーベイ市の地域経済活性化については、サンダーベイは大都市地域からは遠隔の地にあるものの、この地域のハブとなっていることが特徴的です。サンダーベイのマーケットのみならず周辺の都市、北部の準州等との関係も深いことがよくわかりました。またリング・オブ・ファイヤーと呼ばれる資源地帯に近く、レアアースなどが豊富に存在するとされ、現在国際的な注目を集めている電気自動車関連の産業も発展することが期待できるとのことです。また、レイクヘッド大学の存在は地域の経済の活性化の起爆剤であり、若く優秀な人材の供給源となっているとのこと。この

ような地域の特色に注目した日本企業からの照会が相次いでいる、とのことでした。

また、豊かな自然を背景にした観光業、日本食の振興等はまだそれほど世の中に知られておらずビジネスチャンスがあるだろうとのことでした。このような地方の魅力を日本企業に対して積極的に広報していくことの重要性を改めて感じました。



[サンダーベイ市の関係者の皆さまとの意見交換会]

－大自然に囲まれた生活の営み

サンダーベイ市に住んでおられる邦人の方々からもお話を聞く機会を得ました。素晴らしい自然環境の中、様々な分野で元気に活躍される邦人の方々が、充実した生活を送っておられる様子を拝見することができました。大都市圏ではあまり見ることができないビーバーなどは、たくさんいるとのこと。地元の人々は夏に狩猟に出かけるのを

趣味としている方は多いとのこと。山に少しでも入れば、ムースなどの大型動物にも簡単に出くわすとの事でした。私は長く、写真でしかこのような動物を見たことがないので、トナカイとムースの違いがよく解りませんでした。実物を見れば一目でその大きさの違いがわかるとの事でした。ある邦人の方は、この夏、自家用車のドアを開けようとしたところ車の後ろに控えていた、クロクマと目が合ってしまったそうです。このような時は、静かにクマの方を見ながらその場を立ち去るそうです。さらにワイルドなことに、山の中ではクーガーにも出会うこともあるそうです。私は米国に勤務していた頃、イエローストーン国立公園を訪問したことがあります。素晴らしい国立公園でした。米国では人間が保護しなければいけない自然環境が、カナダでは、いわば自然体で見えて接することができるというわけです。夏休みはカヌーを担いで清流を登り3週間のキャンプの旅。食料やテントを積み込み、釣りをしながら生活します。当然 Wi-Fi や携帯電話もつながりません。子供さん達は久しぶりにパソコンゲームから解放され、頭脳も再活性化する様子が見てとれるとのこと。子供の適応能力には本当に目を見張るものがあります。



[サンダーベイ在住の邦人の皆様

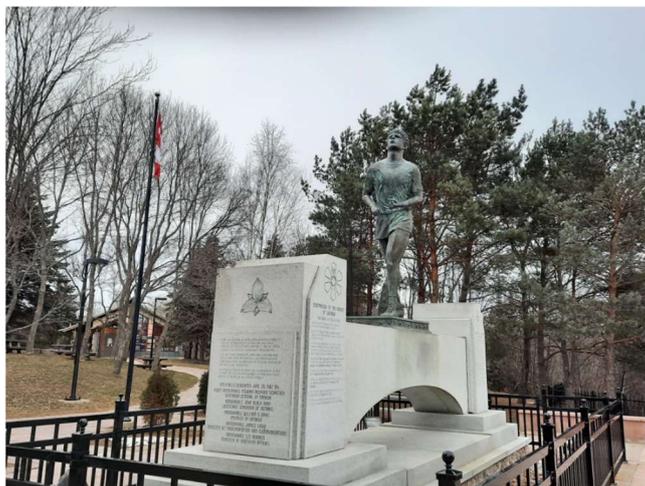
との会合]

サンダーベイ市郊外には 1980 年代にがんと闘いながらカナダを駆け抜けた英雄、
テリー・フォックスの銅像がサンダーベイ湾を望む高台にあります。また北のナイヤ
ガラと言われるカカベカの滝もあります。訪問したときにすでに滝の多くが氷で覆わ
れ、今まで見たことのない神秘的な風景を見ることができました。



[カカベカの滝]

氷に覆われ、神秘的な表情を見せていた。



[テリー・フォックスの像]

今もオンタリオを駆け続けているかのような力強い像です。

来年以降、岐阜市との交流が再開し、また地域経済の振興も願いながらサンダーベ
イ市を後にしました。

(了)